

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、グローバルな視点を持って高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる学校

(1) 生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための学力を育てる学校

(2) 世界的な視野を持ち、多様な文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる生徒を育てる学校

(3) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表現できる生徒を育てる学校

(4) 校訓である「自他敬愛」の心をはぐくみ、互いに支え励ましながら成長できる生徒を育てる学校

(5) 地域に信頼され愛される学校の取組みを通して、社会的貢献ができる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と、生徒の進路希望実現

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。
- ア 「東百舌鳥 Style」(「めあて」「ふり返り」の明確化による学習の定着、ICT 機器の有効活用、「協調学習」を軸とした主体的な学びの推進)を全教科で実施し、教員の授業力向上を図るとともに、生徒の基礎学力の定着をはかる。
- イ 基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に必要な学力の育成に努める。
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」の肯定率を R05 年度には 80%以上にする。(H30:68%, R01:64%, R02:75%)
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業で ICT 活用に取り組んでいる」の肯定率について 90%以上を維持する。(H30:93%, R01:87%, R02:93%)
- ※基礎学力調査における 3 年生の GTZ 値 (国数英) について、R05 年度には、A 5%、B30%、C55%をめざす。(R02:A 1%/B20%/C45%)
- (2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ア コース制の充実を図り、3 年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。
- ※専門コースにおける希望する進路の実現達成率について 90%以上を維持する。(H30:67%, R01:92%, R02:97%)
- (3) 個に応じた指導を充実させ、自己学習を支援する。
- ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
- イ 進学及び授業補充講義を実施するとともに、自学自習のための支援体制を整備する。
- ※生徒の学校教育自己診断における「年度当初より自ら進んで学習するようになった」の肯定率を R05 年度には 70%以上にする。(H30:59%, R01:63%, R02:68%)

2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養

- (1) 「学びに向かう探究学習」の研究・実践を継続し、教育活動の様々な機会に生徒の言語活動の充実を図る。
- ア 生徒一人ひとりが課題に向き合い自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開しながら、生徒の問題解決能力とプレゼンテーション力を育成する。
- イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、生徒一人ひとりの多様な学びの形成的評価ができるよう研究を進めるとともに、更なるカリキュラムマネジメントの充実をめざし、その成果を発信する。
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率について 80%以上を維持する。(H30:72%, R01:78%, R02:88%)
- (2) グローバルな視点と、多様性に対する理解力をはぐくむ。
- ア 英語コミュニケーション能力を向上させる。
- イ 外部機関との連携による異文化交流 (留学生との交流等) を企画・立案し、実施する。
- ※実用英語検定受験者数 (R01:123 人, R02:203 人) 及び準 2 級以上資格保有者数 (R02:53 人) について 150 人以上及び 50 人以上を維持する。
- (3) 「自他敬愛 (自らに誇りをもち、自らを大切に。他者を尊重し、他者を思いやる)」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
- ア 「ピア・サポート」活動を推進・充実させ、相手と協力し合い友好なパートナーシップを築くことで、「自他敬愛」の精神を育てる。
- (4) 特別活動・生徒会活動を通じ、生徒の自主性を重んじながら、社会的基礎力を育成する。
- ア 運営を通して自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに一生懸命取り組み最後まで成し遂げる喜びを経験できるよう、特別活動について工夫を凝らす。
- ※生徒の学校教育自己診断における「学校行事は楽しい」の肯定率について 90%以上を維持する。(H30:82%, R01:92%, R02:90%)
- ※部活動加入率を R05 年度には 65%以上にする。(H30:60%, R01:59%, R02:49%)

3 安全で安心な学びの環境整備と規範意識の醸成

- (1) 安全で安心な学びの場づくりを推進する。
- ア 今後予想される自然災害、疫病感染拡大を想定し、危機管理体制の充実・防災教育の取組みを充実させる。
- イ 校内の衛生管理を徹底するとともに、各委員会を中心に、生徒自身が健康管理に関する正しい知識を身につけ実践できるよう指導する。
- (2) 規範意識を向上させる取組みを推進する。
- ア 毎朝の通学指導を継続し、通学マナー及びあいさつ運動を推進するとともに、頭髪・服装・遅刻等、社会人としてのマナーについて意識を向上させる。
- イ 急速に普及しているスマートフォンなどの SNS 上の人権侵害防止についての取組みを推進する。
- ※生徒の学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」の肯定率について 90%以上を維持する。(H30:86%, R01:87%, R02:91%)

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

- (1) 研修・学習会等、教職員の資質向上をめざした取組みをさらに充実させるとともに、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担をすることで学校組織力を向上させる。
- (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
- ※教職員のストレスチェックによる「健康総合リスク」の値について基準値以下 (概ね良好な状態) を維持する。(H29:96, H30:84, R01:84, R02:94)
- (3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生にとって「行きたい学校」となることをめざす。
- ア 学校説明会等を積極的に実施し、本校の特色ある取組みをアピールする。
- イ 本校 Web ページや学校クラウドサービスを活用して、最新の学校情報を内外に発信する。
- ウ 地域と密に連携し、行事等に積極的に参加する。
- ※保護者の学校教育自己診断による「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率について 90%以上を維持する。(H30:81%, R01:83%, R02:92%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、生徒の肯定的回答率 81%、教員は 86%であり、どちらも昨年より 5 ポイント上昇した。オンライン授業の推進や 1 人 1 台端末の活用推進、観点別学習状況の評価の研究等の効果とも考えられる。</p> <p>・「ICT の活用」に関する質問に対し、教員の回答は 100%となった。全員が ICT の活用を意識した授業を実施できていると言える。</p> <p>【学校生活等】</p> <p>・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は 88%と、昨年と比べ 5 ポイント減少したが、感染症の影響で様々な変更を余儀</p>	<p>【第 1 回：6 月 16 日 (水)】</p> <p>○学校経営計画について</p> <p>・様々な学校で ICT による教育活動を取り入れることに苦慮をしているようであるが、東百舌鳥高校はこれまで培ってきた ICT 活用があるので、生徒への支援は十分に行われていると思う。</p> <p>・学校生活を仲間とともに過ごし、目標達成に向けて相互に支えあう関係を構築していくことが、将来の財産になると思う。「総合的な探究の時間」「学びに向かう探究学習」は、これを積極的に活用することで、生徒の自発的活動、国際・地域貢献の意識づけを通して社会人へのステップを歩んでいくことを支援している計画であると言える。</p> <p>・活動を広報するためにもホームページを充実させるべきである。</p>

<p>なくされながらも工夫し実施した結果、5ポイント減にとどまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は81%と高めだが、実際入部率は50%止まりで、こちらも感染症の影響で活動に制限があることが要因の一つとして考えられるが、今後も部活動活性化に向けて工夫を凝らしたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの質問を「指導に力を入れている」から「指導は理解できる」に変更したが、肯定的回答率は昨年度比3ポイント減の85%と比較的高かった。一定の理解を得られていると思われるが、一方で生徒からは「もっと自由にして欲しい」という声はある。現状と時代の流れを検証しながら見直していきたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」という質問に対する教職員の肯定的回答率は、昨年度より8ポイント上昇したものの、67%と低い値となっている。任命する校長自身、適材適所という考えと、不得意なものも含めて色々な仕事を経験してほしいという思いとのジレンマは拭えない。 ・「相互授業見学や校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立つ内容」という質問に対し、教職員の肯定的回答率は96%であった。今年度は授業を短縮してでも教員のための研修時間を確保したいという思いで年間行事予定に研修時間を割り振った結果だと言える。 	<p>【第2回：11月10日（水）】</p> <p>○授業観察後の感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業を取り入れる等、授業が手厚く生徒は楽しそうである。一方でクラスの数が減少し、教員の数も少なくなっていくので、現状を維持できるのか懸念がある ・ICT機器を利用した授業は中学でも進んでいる。しかし、高校と機器の仕様が大きく違うので、高校においては、これから入学してくる生徒については機器の違いで生じる問題についての対応が必要になる。 ・オンライン授業は一方通行な授業になる可能性があり、生徒の主体性の低下から、理解の低下につながることにならないのか危惧する。 <p>【第3回：2月2日（水）】</p> <p>○R3年度の学校評価及びR4年度の経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までやってきたことをしっかり継続できていると感じる。 ・R4年度の経営計画を承認する。次年度の入部率の向上に期待する。 <p>○その他全般についてのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用が進んでいる中で自己診断の「自ら学習…」の数値が伸びないのは、ネットで調べることが「学習している」という意識に結びついていないのかもしれない。 ・ICTを活用した学習の広がりや深まりは、総合的な探求の時間の発表会で発揮できている。また、SDGsをテーマとした発表等で多様性を感じることができた。 ・このような学習を進めていくためには、もっと行政支援が必要だ。ICT活用を進めながら、教員1人に1台端末がない事は改善すべき。 ・教員定数が減少する中で疲弊している教員が多いことに、今後も留意すべき。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値] ※「学校教育自己診断」→「自己診断」と表記	自己評価
1 確かな学力の育成と生徒の進路希望実現	<p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善 ア 「東百舌鳥 Style」の推進 イ 基礎学力調査の有効活用</p> <p>(2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程編成 ア コース制の充実</p> <p>(3) 個に応じた指導の充実と自己学習の支援 イ 自学自習のための体制整備</p>	<p>(1) ア 「東百舌鳥 Style」について、年度当初に全教員対象の研修を行い周知する。 ・「主体的な学び」について定期的な教員研修を実施し、教員の授業改善へ繋げる。 イ・教員研修を行い、生徒の学力の現状を把握するとともに全教員で課題を共有する。 ・学習指導室を中心に、学力向上に向けた基礎学力調査の有効活用について方策を立案し、全教員での実施をめざす。</p> <p>(2) ア 各コース担当者会議を定期的に行い、生徒の進路実現に向けて充実した内容となるよう、新カリキュラムの最終調整を行う。</p> <p>(3) イ 自学自習の習慣を定着させることを目的とした新しい「ひがも塾」の運営体制を完成させる。</p>	<p>(1) ア 生徒の自己診断で「授業を工夫」の肯定率を昨年度より上昇させる。[75%] ・教員の自己診断で「ICT活用」の肯定率について95%以上を維持する。[98%] ・教員の自己診断で「研修等が役立っている」の肯定率について90%以上を維持する。[91%] イ・教員研修を年2回以上実施し、共通認識を図る。 ・学力向上にむけた方策を立案し取組みのスケジュールを立てることで今年度の達成とする。</p> <p>(2) ア 生徒の自己診断で「各コースの進路実現率」の肯定率について90%以上を維持する。[97%]</p> <p>(3) イ 生徒の自己診断で「自ら進んで学習するようになった」の肯定率について70%以上をめざす。[68%]</p>	<p>(1) ア 生徒の学びについての研修は、時間割等の工夫を凝らし年間7回実施し、全教員で課題を共有できた。 「授業を工夫」[81%] (◎) 「ICT活用」 [100%] (◎) 「研修が役立っている」[96%] (◎) イ・基礎学力調査についての研修は2回実施し、共通認識を図った。(○) ・基礎学力向上に向けて、新たな方策を進路指導部・プランニング会議を中心に立案、実施した。(◎)</p> <p>(2) ア 各コース担当者会議を定期的に行い、新カリキュラムを完成させた。 「各コースの進路実現」[95%] (◎)</p> <p>(3) イ 「ひがも塾」の参加者は16名 参加者は自学自習のコツを身に付け、満足度も高かったが、他の生徒へ広げる工夫が必要である。 「自ら進んで学習」[67%] (△)</p>
2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養	<p>(1) 「学びに向かう探究学習」の研究・実践の継続と生徒の言語活動の充実 ア 生徒の問題解決能力とプレゼン力の育成 イ 形成的評価の研究とカリキュラムマネジメントの充実</p> <p>(2) グローバルな視点と多様性に対する理解力の育成 ア 英語コミュニケーション能力の向上</p> <p>(3) グローバルリーダーの育成 ア ピア・サポート活動の推進</p> <p>(4) 特別活動・生徒会活動を通じた社会的基礎力の育成 ア 特別活動に関する工夫</p>	<p>(1) ア 「総合的な探究の時間 (GS)」をはじめ、あらゆる授業において、生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会を積極的に設ける。 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、3年間で育成したいコンピテンシーと評価指標を全教科で完成させる。</p> <p>(2) ア 世界共通語の1つである英語の有用性を理解させ、実用英語検定試験の受験を推奨する。</p> <p>(3) ア 生徒会役員、各部の主将等にピア・サポート研修を定期的に行い、「自他敬愛」の精神を養いながら、次世代のリーダーを育成する。</p> <p>(4) ア ピア・サポート研修を経験した生徒を中心とし、各行事(体育祭、文化祭、学校説明会、Shrike Cup等)を生徒が運営することで、社会的な基礎力を育むと同時に特別活動を活性化させる。</p>	<p>(1) ア 生徒の自己診断で「自分の考えをまとめ発表する機会がある」の肯定率について80%以上を維持する。[88%] イ 評価の指標を完成させて達成とする。</p> <p>(2) ア 実用英語検定試験の受験者について150人以上準2級以上の資格保有者数について50人以上を維持する。[203人/53人]</p> <p>(3)(4) ア・リーダー研修年3回/ピア・サポート研修年7回実施する。[2回/5回] ・生徒の自己診断で「学校行事は楽しい」の肯定率について90%以上を維持する。[90%] ・生徒が運営する中学生向け学校説明会のアンケートで、参加者の満足度「大変良かった」について70%をめざす。[「大変良かった」67.4%/「良かった」32.6%] ・Shrike Cup(東百舌鳥杯)の参加中学校延べ数27校以上をめざす。[実施せず(R01:26校)]</p>	<p>(1) ア 「総合的な探究の時間」については予定通りポスターセッションを開催し発表の機会を設けた。 「…発表する機会がある」[89%] (◎) イ 全教科で評価指標を完成させ、「観点別学習状況の評価」の評価軸に連動させた。(○)</p> <p>(2) ア 受験者数151人、準2級以上の資格保有者集53人となった。(○)</p> <p>(3) ア・リーダー研修は3回、ピア・サポート研修は10回実施。また、TV版の学校説明動画を生徒会執行部の生徒が作成する等リーダー育成の取組みを充実させた。(◎) ・各行事について内容を大きく変更する等、予定どおりの内容で実施できなかったが、満足度は目標値に近かった。「学校行事は楽しい」[88%] (○) ・生徒会執行部員、各クラブの有志がサポート隊として「オープンスクール」等で活躍した。 参加者のアンケートによると、「良くなかった」は0%であり、内容については肯定してもらえたものの、「無駄な待ち時間」について厳しいご意見をいただいた。 「大変良かった」[61%] (△) (肯定的評価合計は95%) ・感染症の影響で予定どおりの大会は実施できなかった。(一)</p>

府立東百舌鳥高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 安全で安心な学びの環境整備と規範意識の醸成</p>	<p>(1) 安全で安心な学びの場づくり ア 危機管理体制の充実と防災教育の取組みの充実 イ 校内の衛生管理の徹底と生徒の健康管理に関する意識の醸成</p> <p>(2) 規範意識の向上をめざす取組み ア 社会人としてのマナーの指導 イ SNS に関わる人権侵害防止教育の推進</p>	<p>(1) ア マニュアルを見直し様々な災害等の場面を想定した危機管理体制を確認するとともに、防災訓練についてもこれまでの検証を基に内容を充実させる。 イ 生徒保健委員及び生徒美化委員の様々な活動を通じて、生徒全体に衛生管理・健康管理に対する意識を高める。</p> <p>(2) ア・朝の通学指導を学校全体で取り組み、通学マナーを徹底する。 ・社会人として当たり前の時間管理について指導を徹底する。 イ 外部講師による研修を行い、SNS 活用のマナーについて考え自覚する機会を作る。</p>	<p>(1) ア 教員の自己診断で「災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割分担がされている」の肯定率について 85%以上を維持する。[85%] イ 生徒保健委員会：前・後期各 3 回以上開催（前期には、学校保健委員会での発表を行う） 生徒美化委員会：毎月 1 回開催</p> <p>(2) ア・遅刻総数について前年度比減をめざす。[3,364 件] イ 生徒の自己診断で「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率について 85%以上を維持する。[86%]</p>	<p>(1) ア 保健部を中心にマニュアルを見直した。また、防災訓練の実施方法についても従来の方法を検証し、実践的な内容となるよう充実させた。ただ、教職員への周知方法に課題が残ったと思われる。 「災害時の役割分担」[73%] (△) イ 生徒保健委員会については前・後期 3 回ずつ実施 (○) 生徒美化委員会は感染防止で中止した月以外、ほぼ毎月実施し活動を行った。(○)</p> <p>(2) ア 遅刻防止の策を講じた結果、生徒の意識が変わったかは不明だが、数は減少した。今年度遅刻数 2847 件 (◎) イ 外部講師を招聘し、スマホのマナーについて考える機会を設けた。 ただ、その他の研修について集会という形が取れず、予定どおりには行うことができなかった。 「学ぶ機会」[81%] (△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 教職員の資質向上と適材適所の人員配置による組織力向上</p> <p>(3) 開かれた学校づくり ア 学校説明会の積極的な実施 イ Web ページやクラウドサービスによる情報発信</p>	<p>(1) ・授業見学週間を設け、教員間で相互に授業を観察し意見を交換することで、授業改善の一助とする。 ・2週間に1度のペースで、「生徒の主体的な学び」の学習会を開き、自由に授業についての意見交換ができる機会を設ける。 ・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、学校の組織力を向上させる。</p> <p>(3) アイ ・学校説明会を積極的に行い、本校の特色や魅力を伝えると同時に、Web ページ等を充実させ、本校の取組みについて生徒・教職員を通じて発信する。</p>	<p>(1) ・教員の自己診断で「相互授業見学等が教育実践に役立つ」の肯定率について 90%以上を維持する。[91%] ・教員の自己診断で「教員間で授業方法等について検討する機会を作っている」の肯定率について 85%以上をめざす。[84%] ・教員の自己診断で「適正・能力に応じた校内人事がなされている」の肯定率について 60%以上をめざす。[59%]</p> <p>(3) アイ ・生徒の自己診断で「中学生時にオープンスクール等に参加した」の肯定率について 60%以上を維持する。[65%] ・保護者の自己診断で「学校クラウドサービスの連絡は役立っている」の肯定率について 90%以上を維持する。[91%]</p>	<p>(1) ・年に 2 回授業見学週間を設け、相互に授業を観察し意見交換を行った。 「教育実践に役立つ」[96%] (◎) ・学習会の定期的な実施は困難であったが、教員研修で協議する機会は充実していた。 「検討する機会」[86%] (○) ・「校内人事」[67%] (◎)</p> <p>(3) ・「今年の入学生の参加率」[62%] (○) ・臨時休業等の緊急連絡や学校行事に関する連絡について外部クラウドサービスを活用し機を逸することなく行った。「役に立っている」[97%] (◎) ・Web ページのリニューアルを完了した。オープンスクールの参加者のアンケートによると、Web ページを活用した割合は約 50%であった。</p>